

韓国語初級授業における TA の活用について

金 成妍、牧野 美希

アブストラクト

APU の言語授業では「TA 学びあいプロジェクト」という事業を行っており、これを通して韓国語の授業では、セメスターごとに最大 100 回、韓国人留学生を TA として取り入れ、学習者に母語話者とのインターアクションの機会を提供し、実際の場面での言語使用を体験させ、言語学習の元来の目的である「使用」を手助けしている。このような取り組みは管見によれば他大学では実施例を見ない、日本の大学では珍しい学習制度といえる。そのため、日本の大学の韓国語教育における TA の実施例及び効果に関する研究は少ないのが現状である。そこで、本稿では APU の TA 活動を取りあげ、その取り組みが及ぼす効果について考察すると共に、より体系的な実施のための課題を提示することを試みた。事前に TA 参加授業に対する学習者の意識調査を行った後、その結果をふまえ会話に重点をおいた TA 参加授業をデザインした。TA 参加授業の実施後もアンケートを行い学生の意見や感想を把握、報告した。

キーワード：韓国語教育、初級学習者、Teaching Assistant (TA)、ビジター・セッション、グループワーク

はじめに

立命館アジア太平洋大学（以下 APU と表記）の学年は、春セメスターと秋セメスターに分かれており、これらのセメスターはさらに 8 週間ごとのクォーターに区切られる。このような 4 学期制度のもと、大部分の授業は週に 2 回行われている。韓国語を含む言語クラスの場合、春セメスター、秋セメスターに授業が始まり、週 4 回行われている。このようなカリキュラムは、APU における言語教育の重要性を表している。

現在韓国語クラスでは、セメスターごとに最大 100 回のティーチング・アシスタント（Teaching Assistant、以下 TA と表記）の使用が割り当てられている。大学院学生を学士課程の授業に活用するという従来の TA 制度とは異なり、APU の言語授業では「TA 学びあいプロジェクト」と呼ばれる、学部生による TA 活用事業を行っている。このプロジェクトを通して韓国語授業では、韓国人留学生を TA として取り入れ、学習者に母語話者とのインターアクションの機会を提供し、実際の場面での言語使用を体験させ、言語学習の元来の目的である「使用」を手助けしている。このような取り組みは、管見によれば他大学では実施例を見ない、日本の大学では非常に珍しい学習制度といえる。そのため、日本の大学の韓国語教育における TA の実施例及び活用効果に関する研究は少ないのが現状である。

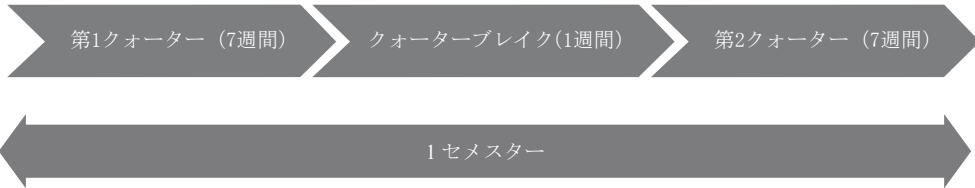
外国語学習現場に母語話者を参加させる授業活動を指す言葉に、「ビジター・セッション」、「カンバーセッション・パートナー・プログラム」「授業ボランティア」などが用いられている。その中でも主に用いられている用語は「ビジター・セッション」である。ビジター・セッションとは、言語教育の現場に母語話者を招いたり、母語話者のコミュニティを訪れたりして、実際場面で目標言語を使用させる活動である。ビジター・セッションに関する研究は、ネウストブニーが提唱した理論からはじまり、主にアメリカなどにおける日本語教育現場の会話指導の方法論として行われてきた。日本語教育現場におけるビジター・セッションを研究対象にした論文としては、村岡(1992)、中井(2003)、横須賀(2003)、ファン・サウクエン(2005)、赤木(2011、2013)等が挙げられる。ところが、韓国語の教育においては、ビジター・セッションに関する上記のような研究はきわめて少ない。

日本の大学で実施されている韓国語教育の場合、ビジター・セッションのように母語話者が授業に参加するという取り組みの例は十分な報告が無い。そこで本稿では、日本の大学で実施されている韓国語教育における、いわゆる「ビジター・セッション」の一例として APU の TA 活動をあげ、その取り組みが及ぼす効果について考察すると同時に、より体系的な実施のための今後の課題も提示したい。

2. APUの韓国語授業

2.1 概要

APUの韓国語授業は4学期制で行われており、日本の祭日と関係なく7週間続けて授業を行い(第1クォーター)、クォーターブレイクと呼ばれる1週間の休みを設けた後、さらに7週間続けて授業を行い(第2クォーター)、一つのセメスターが完了する。TAの導入は第2クォーターで行われる。



教材は『New カナタ Korean for Japanese』(カナタ韓国語学院著)の初級1、2、中級1、2を使用している。教材と並行して『new カナタ Korean for foreigners workbook』も使用している。各教科書は全30課で構成されており、1セメスターで一冊の教科書を終わらせる。また、学習の到達度を図る目的でハングル能力検定試験の受験を奨励し、第1クォーターでは教科書の内容と並行してハングル能力検定試験の対策も行っている。韓国語Iではハングル能力検定試験5級を、韓国語IIでは4級を、韓国語IIIでは3級を、韓国語IVでは準2級の合格を目指している。各レベルのクラス数と学生数は以下の〈表1〉の通りである。

〈表1〉 APUの韓国語授業のクラス数と学生数(2013年10月現在)

学習レベル	クラス名	学生数(名)
韓国語 I	0A	25名
	0B	25名
	0C	25名
	0D	25名
	0E	25名
韓国語 II	0A	24名
	0B	23名
韓国語 III	0A	19名
韓国語 IV	0A	10名
総計		201名

2.2 TAの概要

APUではTAを「契約に基づいて講義や演習の補助を行う在学生」と定義し、セメスターごとに募集を行っている(APUアカデミック・オフィスホームページより)。APUにおけるTAは学内雇用の一環であるため、一定の賃金が支払われる。そのため、「クラス運営に不可欠である黒板消しやパソコンの操作などの細々とした仕事を行うことが義務付けられ」、時間厳守、協調性、正確性、積極性などが求められる。

現在 APUの韓国語授業では、各セメスターで最大100回分のTA活動を導入している。TAの回数はTA1名の使用を一回とし、同じ授業に5名のTAを使用した場合、5回と計上される。この100回のTA活動は受講者数を考慮して各クラスに分配されるが、平均して11回前後が割り当てられる。TAの選考、使用法は各クラスの担当教員に一任される。韓

国語授業の TA は、韓国語母語話者を採用することを原則とする。TA になるためには、大学への事前登録と資格外活動許可証の申請が必要である。また、担当教員によるインタビューが行われる場合がある。

APU は国際学生の数の多さで知られているが、その中でも韓国人留学生の数は中国人留学生に次いで 2 番目に多い。APU の学生数に対する韓国人留学生の割合は以下の〈表 2〉の通りである。〈表 2〉に示した韓国人留学生、553 名のうち、2013 年 11 月現在 27 名が TA として活動している。

〈表 2〉 APU の学生数 (2013 年 5 月)

国内学生(日本人学生)		3,235 名
国際学生 (留学生)	中華人民共和国	653 名
	大韓民国	553 名
	ベトナム	238 名
	タイ	182 名
	インドネシア	156 名
	台湾	65 名
	ウズベキスタン	44 名
	その他 77 ヶ国・地域	529 名
学生総数(国内学生+国際学生)		5,655 名

3. アンケートによる意識調査

2013 年度秋 semester (2013 年 10 月 3 日から 2014 年 2 月 5 日まで)の韓国語授業における学習者の意識調査を行い、韓国語の学習動機、学習の目標、授業に望むことを把握し、さらに TA との授業に望むことも事前にリサーチすることでより効果的な TA 活用を試みた。

3.1 調査の概要

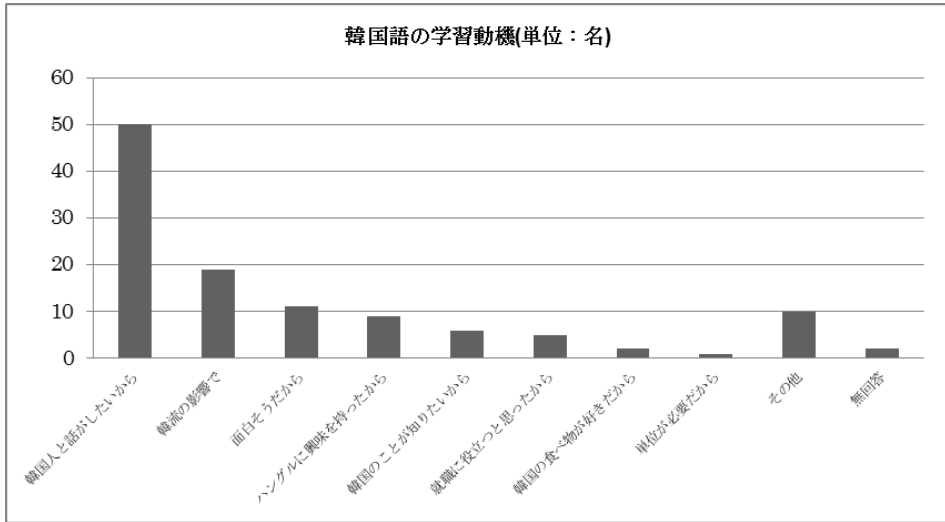
- (1) 実施期間：2013 年 10 月 4 日
- (2) 調査方式：無記名によるチェック及び記述式
- (3) 調査対象：韓国語 I 履修者 (0A、0B、0C、0D、0E)
- (4) 回答者数：115 名 (男：27 名、女性：88 名)

3.2 調査内容と回答結果

3.2.1 韓国語の学習動機について

韓国語を初めて学ぶ学習者にはそれぞれ様々な動機があると考えられる。今回の調査では、本学の学生がどのような動機を持って韓国語を履修したかを調べるために「韓国語を履修した理由は何ですか」という項目を設けてアンケートを行い、得られた結果を〈表 3〉にまとめた。

〈表3〉韓国語学習の動機について

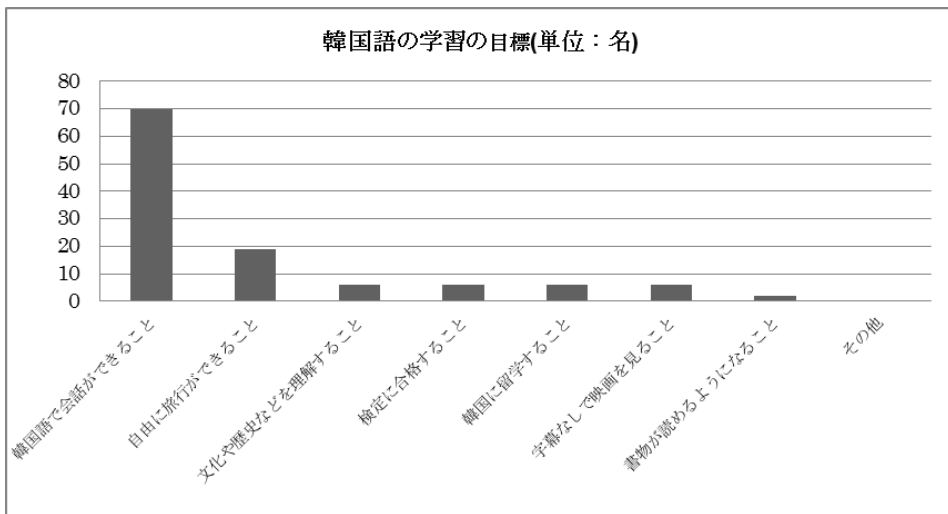


分析の結果、韓国語を履修した動機として「韓国人と話したいから」という答えが一番多い50回答で43.5%に至った。その次が「韓流（K-pop、ドラマ、映画など）の影響で」という答えで、19回答で16.5%を示した。

3.2.2 学習の目標について

韓国語学習の目標について調査した結果、「韓国語で会話ができること」という答えが一番多い70回答で60.9%に至った。その次が「自由に旅行ができるようになること」という答えで、19回答で16.5%を示した。その結果を〈表4〉にまとめた。

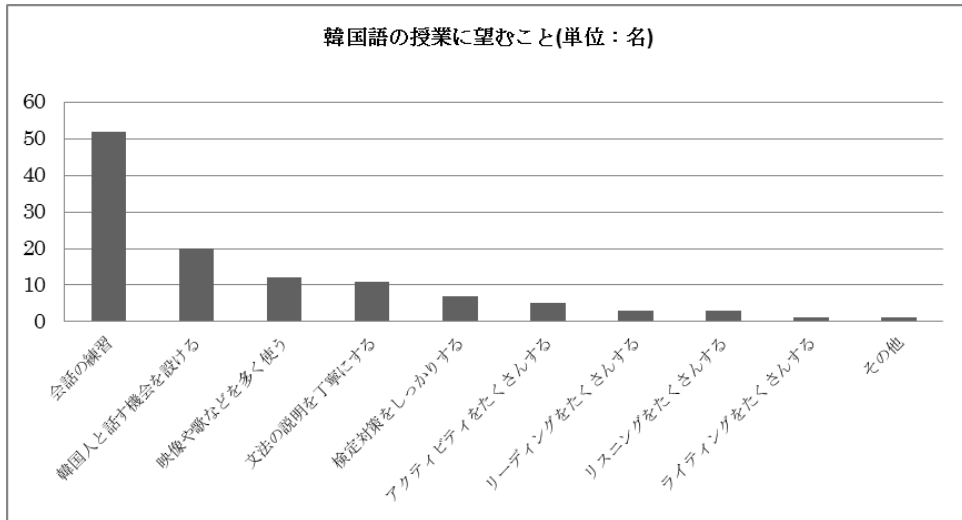
〈表4〉韓国語学習の目標について



3.2.3 韓国語の授業に望むこと

韓国語の授業に望むことについて調査した結果、「会話の練習をたくさんしてほしい」という答えが一番多い 52 回答で 45.2% に至った。その次が「韓国人の学生と話す機会を設けてほしい」という答えで、20 回答で 17.4% を示した。その結果を〈表 5〉にまとめた。

〈表 5〉 韓国語の授業に望むこと



3.2.4 授業への要望について

韓国語を初めて学ぶ韓国語 I 履修者の授業に対する希望や意見などを自由記述形式で書いてもらった結果、以下のような意見が集まった。

- ◆ 会話が上手になりたい (13名)
- ◆ 検定に合格したい (4名)
- ◆ 発音指導と会話練習に力を入れてほしい (1名)
- ◆ グループワークをしてほしい (1名)
- ◆ 宿題をたくさん出してほしい (1名)
- ◆ パーティをたくさんしてほしい (1名)
- ◆ たくさん練習をしてほしい (1名)
- ◆ アクティビティを取り入れてほしい (1名)
- ◆ おすすめのドラマを教えてください (1名)
- ◆ 韓国語が聞き取れるようになりたい (1名)
- ◆ 韓国の文化について教えてください (1名)
- ◆ フレンドリーな雰囲気の授業にしてほしい (1名)
- ◆ 映画やドラマを紹介してほしい (1名)

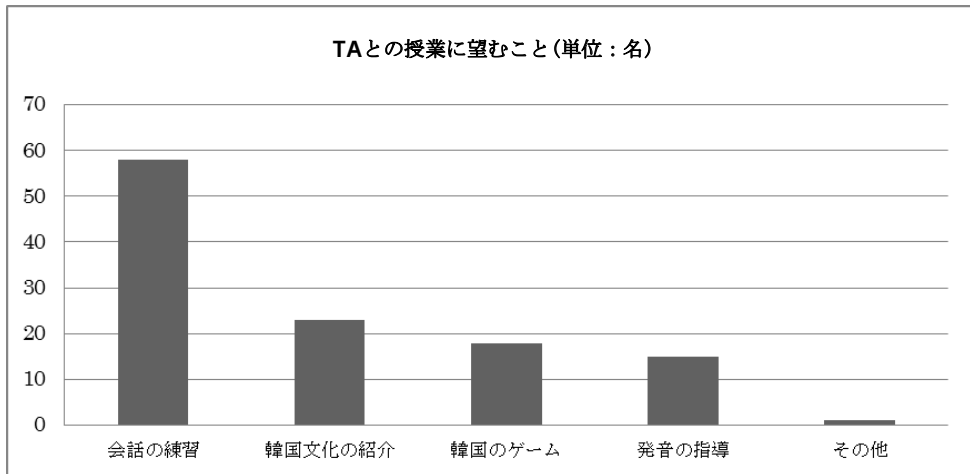
以上の調査結果を分析してみると、韓国語を履修した動機も「韓国人と話したいから」が一番多かったし、学習目標も「韓国語で会話ができること」が一番多かった。また、韓国語の授業に望むことも「会話の練習をたくさんしてほしい」

しい」という答えが大半を占めた。授業への要望の自由記述においても「会話が上手になりたい」が一番多かった。日本における他の大学での調査結果と比べると「会話」への欲求が非常に強く、これは実用的な目的意識が著しいことを物語っている。金敬鎬 (2009) が行った「日本母語話者の韓国語学習に関する意識調査」の結果によると、学習の動機や目的としては「単位が必要なので」とか「国際交流・異文化理解の一環として」、または「将来の就職のため」などの答えが多く、韓国人との実用的な会話を望む学習者が本学と比べ、少なかった。したがって、実用的な会話スキルに対する要求度の高さは本学の韓国語学習者のもつ特徴といえる。

3.2.5 TA との授業に望むことについて

TA との授業に望むことを調査した結果、「会話の練習」という答えが一番多い 58 回答で 50.4% に至った。その次が「韓国文化の紹介」の 23 回答で 20% を示した。その結果を〈表 6〉にまとめた。

〈表 6〉 TA との授業に望むことについて



4. 韓国語授業における TA の実施例

上記のアンケート調査の結果をふまえた上で、会話練習に重点をおいた TA 参加授業をデザインした。それを韓国語 I クラスで以下の内容で実施し、学生の授業態度や活動の様子などを観察した。その結果を授業実施後に行ったアンケートとともに以下に報告する。

4.1 概要

- (1) 実施期間：2013年12月2日～2013年12月13日
- (2) 調査対象：韓国語 I OA(21名)、韓国語 I OE(24名)
- (3) 実施内容：

決まった時間にグループワークをさせる。TA との授業では、グループは学生 4～5 名、TA1 名で構成する。グループワークでは、指定されたテーマについて自由に会話をさせ、その結果を紙にまとめて最終的にクラス全体で発表させる。記入はすべて韓国語で行い、イラストなどは自由に書いてよいことにする。また TA がいる場合といない場合の違いを観察するために、同様のグループワークを TA なしでも行った。教員はグループワークの前にテーマに関する説明を行った後、紙と油性ペンを提供する。教員は基本的にディスカッションには関与しない。

(4) 調査方式：

TA が韓国語授業にもたらす効果を観察するため、各クラスに TA がいる場合と入らない場合でグループワークを実施した。グループワークの実施日とテーマ、そして TA 導入状況は以下の〈表 7〉の通りである。

〈表 7〉グループワークの実施状況

実施日	テーマ	韓国語 I OA	韓国語 I OE
2013 年 12 月 2 日	別府の紹介	TA なし	TA あり
2013 年 12 月 6 日	私の日課	TA あり	TA なし
2013 年 12 月 9 日	韓国と日本の違い	TA なし	TA あり
2013 年 12 月 13 日	一番の思い出	TA あり	TA なし

(5) 各回における TA 使用人数

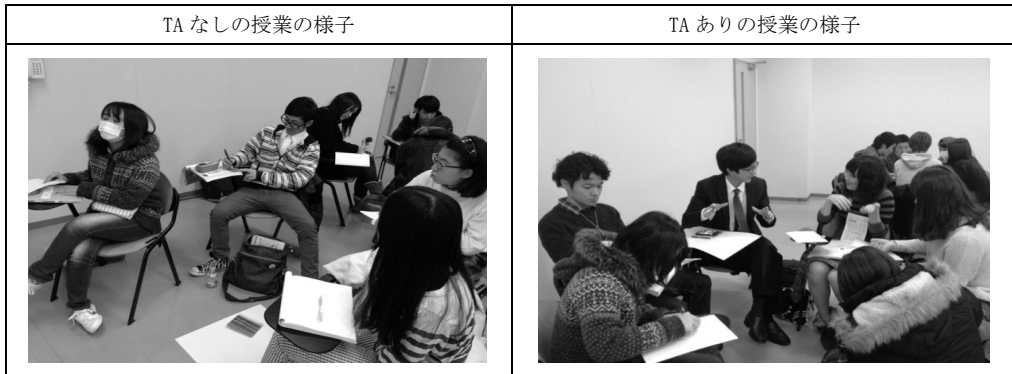
〈表 8〉各クラスにおける TA の人数

実施クラス (学生数)	導入した TA の人数
韓国語 I OA (21 名)	4 名
韓国語 I OE (24 名)	5 名

5. 実施報告

5.1 授業の様子

TA が参加しない授業ではグループワークにも関わらず、一人ひとり携帯や辞書、教科書などで単語を調べており、お互い話し合うことが少なかった。また韓国語をほとんど使わず、日本語や英語で話していた。そして時間が経つにつれ集中力が落ち、グループワークに参加しない学生も目立った。一方、TA が参加した授業では、TA の参加によってグループがまとまり、盛んに話し合っって発音の矯正をしてもらいながら発表の準備に追われていた。教科書や辞書を調べることなく、TA が韓国語で話しかけることによって学生も積極的に韓国語で答えようとしている様子がうかがえた。





5.2 テーマ別グループワークの結果物

語彙量の少ない韓国語 I という学習段階の特性上、書かれたものには一見大きな差はないように見受けられる。しかし、口頭発表では明らかな差を認めざるを得なかった。TA なしのグループの発表は学生自身が辞書や教科書などで調べた単語をつなげている上に発音の矯正を受けていないため、発音の誤りが多かった。発表も声が小さかったり、途中で途切れてしまったりする等、自信のなさが表れた。それに対して TA ありのグループの発表は滑らかに進められており、発表者も自信を持っているような様子が見られた。それに、一つの文章が比較的長いのも特徴といえる。

テーマ	TA なし	TA あり
別府の紹介		

<p>私の日課</p>	<p>쇼타</p> <ul style="list-style-type: none"> • 할 • 외동어 보자 <p>이즈이</p> <ul style="list-style-type: none"> • 오우르도 중 연습합니다. • 남보우 합니다. • 밥을 먹습니다. • 노래를 듣습니다. <p>저의 일과</p> <p>숙요</p> <ul style="list-style-type: none"> • 저녁을 매일 만듭니다. • YouTube를 봅니다. • Yahoo 뉴스를 체크합니다. 	<p>예민해 보여도 겁이 없다. 어분성질을 뒤엎고, 대문자 쓰지 않게 되었습니다. 예민함 스타일입니다. 저가 먼저 친구 보드제로로요.</p> <p>일과 습관</p> <p>대문자 커 피를 만듭니다. 매일 밤 두목을 씹고, 매일 밤 뉴스를 봅니다. 매일 밤 유튜브를 봅니다.</p> <p>매일 아침 샤워를 합니다. 매일 운동복을 입고, 매일 헤어스프레이를 듭니다. 매일 잠자꾸러기 연습을 합니다.</p>
<p>韓国と日本の 違い</p>	<p>한국</p> <ul style="list-style-type: none"> • 밥을 많이 먹습니다. • 한국 사람 잘 달배운 되요와 온 온입니다 • 남자가 친절합니다. • 군대가 있습니다. • 한국 남자가 좋은 몸입니다. • 스타일리스 젓가삭을 씹습니다 <p>일본</p> <ul style="list-style-type: none"> • 남자가 완분하다. • 일본 사람은 조용합니다. • 문화가 다릅니다. • 나무 보섯가학을 씹다 • 사람이 많고 면적이 넓다 	<p>한국</p> <ul style="list-style-type: none"> • 음식이 많다 • 카피기가 많다 • 물건값이 싸다 • 안경을 낀 남자가 많다 • 한국사람은 동서로 향해서 가다 • 한국 사람은 눈개미가 많다 • 한국사람들은 선술을 많이 마신다 <p>일본</p> <ul style="list-style-type: none"> • 음식이 적다 • 피스드 쪽지가 많다 • 물건값이 비싸요 • 안경을 낀 남자가 별로 없다 • 일본 사람은 동서로 향할 목적을 가다 • 일본 사람은 목개미가 많다 • 일본사람들은 선술을 많이 마신다
<p>一番の思い出</p>	<p>하나코</p> <p>연가족 여행에 갔어요 여행을 병행에 중국 하고 한국에 갔어요 현수필을 많이 했어요~</p> <p>우리 가 장</p> <p>좋은 추억</p> <p>후코</p> <p>* 빅백 콘서트에 하나코하고 갔어요!! *지 난구 도요 일!! *힘들어서 너무 *가게 뒤에서 기웠어요~</p> <p>아이</p> <p>차캐나다에 갔어요 언어 학교에서 영어를 공부했어요. 문의 방문</p> <p>마나</p> <p>친구하고 여행 하다 그리고 미야가 됩니다</p> <p>유기</p> <p>인발리아에 갔어요 베네치아에서 친구하고 같이 음식을 먹었어요 *4년전</p>	<p>사에 : 오사카에서 여행을 했습니다. 저기에서 소장을 많이 봤습니다. 그리고 맛있는 튀어키를 많이 봤습니다.</p> <p>린타카 : 처음 처음 APU에 입학했습니다. 저는 한국어 공부할 생각을 했습니다. 마키노 선생님은 만났습니다.</p> <p>유미 : 금년 5월 에, 오사카 에 왔을 때는 USJ에 갔습니다. 그리고, 도쿄 하토 에서, 마이코보와 사진을 찍었습니다.</p> <p>영진 : 작년 여름, 고향에서 도일을 공부했습니다. 그리고, 몇몇을 들을 줄을 먹었습니다. 피곤한 것만 물어주신다.</p>

6. 授業実施後、アンケートの結果

2013年12月2日から12月13日まで実施したTA参加授業に対する評価および感想をリサーチした。アンケートではTA参加授業が韓国語学習に役に立ったかどうか、役に立ったならばどのように役に立ったか、あるいはなぜ役に立たなかったかを考えさせ、TAの授業に関する学習者の意見を広くきいた。

6.1 調査の概要

- (1) 実施期間：2013年12月16日、17日
- (2) 調査方式：無記名によるチェック及び記述式
- (3) 調査対象：韓国語I履修者(OA, OE)
- (4) 回答者数：42名

6.2 調査内容と回答結果

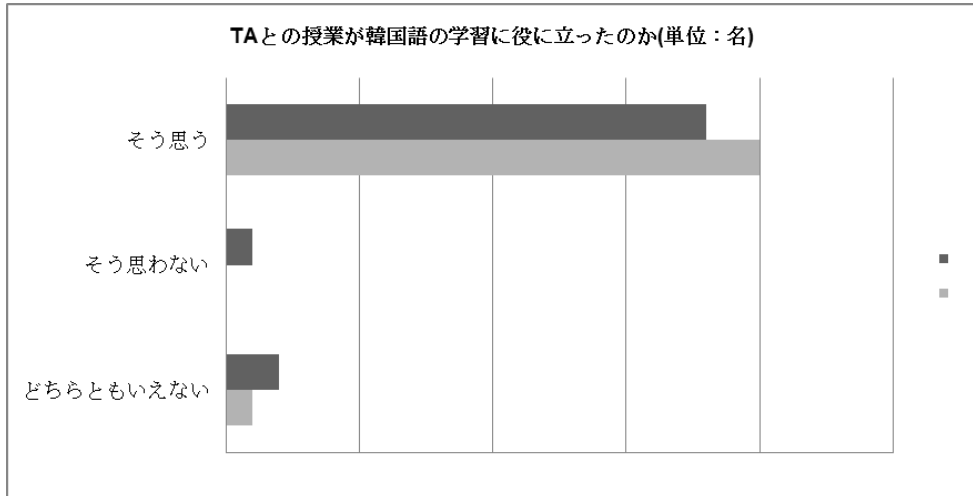
6.2.1 TAとの授業が韓国語学習に役に立ったかについて

学習者にとってTAとの授業が役に立ったかどうかを調べ、その理由も自由記述形式で調査し、得られた結果を〈表9〉にまとめた。自由記述形式で回答を求めた質問については、「発音、語彙・表現、会話」などのカテゴリーに分類して集計した結果を〈表10〉にまとめた。

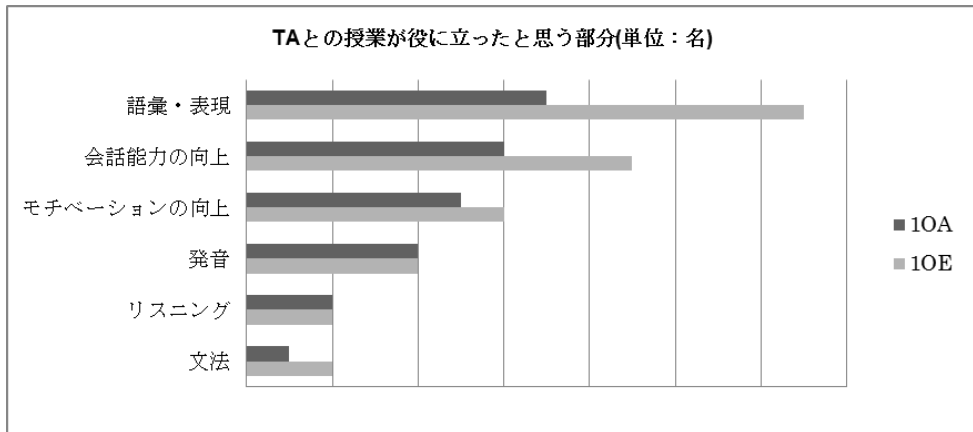
全体の回答の中でTAの授業が韓国語学習に役に立たないと答えた学生は1名のみであった。その理由については、「自分の能力が低くて理解できなかった」と回答している。一方、学習者が役に立ったと思った部分を調べた結果を見ると、「語彙・表現」が最も多かった。その次が「会話能力の向上」、「モチベーションの向上」、「発音」、「リスニング」、「文法」の順であった。〈表10〉から見て取れるように、二つのクラスが共に同じ項目を挙げており、その順序から同じ結

果が見出せる。つまり、〈表10〉に挙げた項目がTA参加授業に対する学生の共通認識と考えられるのである。

〈表9〉 TAとの授業が韓国語学習に役に立ったかについて



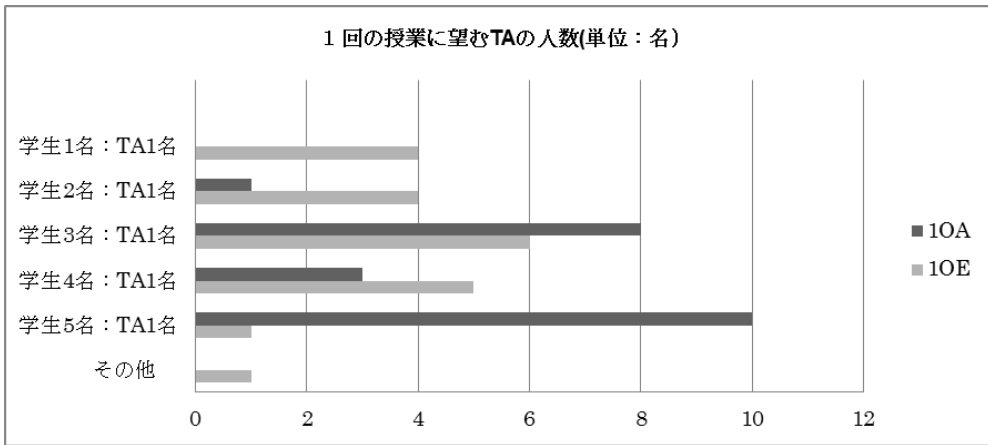
〈表10〉 TAとの授業が役に立ったと思う部分について



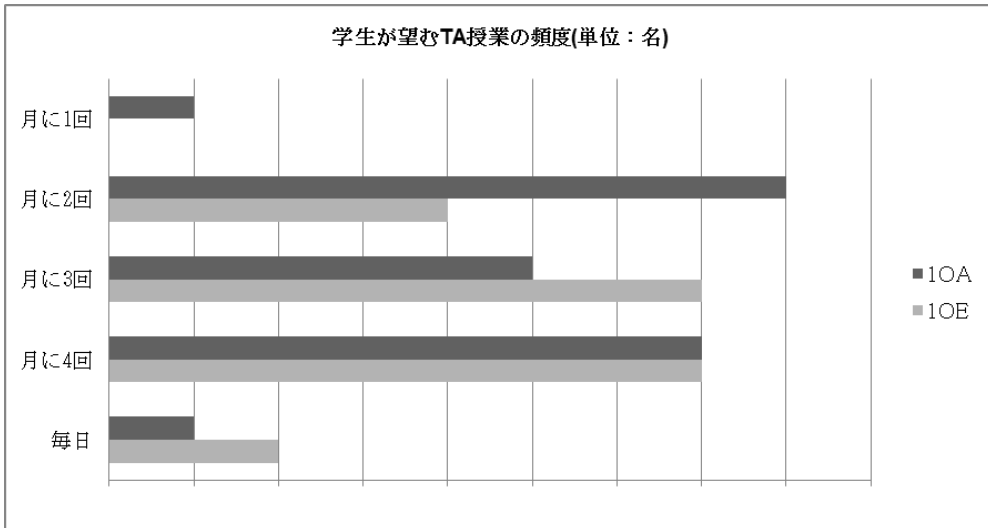
6.2.2 学生が望むTAの人数と頻度

一回の授業に参加するTAの人数とTA参加授業の頻度について質問した。TAの人数とはTA1名に対する学生の人数である。〈表11〉と〈表12〉から分かるように、TAの人数と頻度については二つのクラスで異なる結果が得られた。まずTAの人数に関する結果から見ると、各クラスの回答数を総合した場合、最も多かった回答は「学生3名:TA1名」であった。また、その他の答えとして「毎日」と回答した学生が全体で3名いた。しかしクラス別の回答者数を見てみると、10Aで一番多かった回答は「学生5名:TA1名」であり、10Eで一番多かった回答は「学生3名:TA1名」であった。

〈表 11〉 1 回の授業に望む TA の人数について



〈表 12〉 学生が望む TA 授業の頻度について



もう一つ注目すべきことは、10A では TA1 名に対する学生の人数が「3 名から 5 名」という回答に集中しており、学生人数が「1, 2 名」という回答がほとんど見られなかった。それに対して 10E の回答では、TA に対する学生の人数が「1 名、2 名」という回答が比較的多く見られた。それに、10A では最も多かった「学生 5 名 : TA1 名」という回答が 10E では最も少なく表れた。以上の結果から TA との接触度に対する要求には一貫性が見受けられず、学生個人やクラスによって異なることが確認できた。したがって今後は学生個々へのインタビューなどを通して、TA 参加授業に対する意識をより詳細に追及していくことが課題となる。

6.2.3 TA の授業に関する意見

最後に TA の授業に関して学生の意見を自由記述形式で書いてもらい、以下のようにまとめた。印象に残った点と今後の改善点に分けて、類似した答えは同一の回答と見なした。

(1) 印象に残った点

【10A】

- ◆ 丁寧にゆっくり説明してくれて分かりやすかった (3名)
- ◆ 突然韓国語で話かけられて返事ができたことで成長を感じた (1名)

【10E】

- ◆ TAの回数を増やしてほしい (1名)
- ◆ 韓国語学習に対するモチベーションが上がった (7名)
- ◆ 発音を直してくれて勉強になった (1名)
- ◆ 会話の練習になった (1名)

(2) 改善点

【10A】

- ◆ 発表中にTA同士の話し声が気になった (1名)

【10E】

- ◆ TAの男女比を考慮してほしい(男性だけだった) (2名)
- ◆ アクティビティの課題をフランクな内容にしてほしい (1名)
- ◆ もっと韓国について教えてもらいたい (1名)
- ◆ あまりできない人が上手な人に毎回TAが話した内容を質問していて、答えている人が大変そうだった (1名)
- ◆ 同じ人が決まったグループを担当したほうが仲良くなれると思う (1名)

以上の調査結果を分析してみると、印象に残った点では「韓国語学習に対するモチベーションが上がった」という回答が一番多く、その次が「丁寧にゆっくり説明してくれて分かりやすかった」という回答が多かった。また個別に答えを見てみると「同じ学生だから気軽に質問しやすかった」、「単語を会話で学んだので覚えやすかった」、「先生が一人ひとりに直接教えるのは時間がかかるので、TAさんを入れてより充実した授業になった」「アウトプットは非常に大切だと思っただ」などの答えが見られた。

以上の答えからTAが授業に入ることによって学生一人一人の細かな要求に応えられる授業に、より近づいたと考えられる。教師が一人で授業を行う場合は、指導する時間が限られているため、学生一人一人の到達度や要求を把握することは難しい。しかしTAが授業に参加することで、授業に対する学生個々の理解度を高めることができる。それが学習に対するモチベーションの向上にもつながると考えられる。

次にTA授業における改善点の回答の結果を見てみると、一番多かった回答がTAの男女比の問題であった。10AのTA参加授業では男性3名女性1名の割合だったが、10Eの場合は全員男性であった。それに対する不満が学習者にはあったと考えられる。今回このようになったのは、TAとして登録した学生の授業スケジュールと韓国語授業の時間が重なってしまい、思うようにTAを集めることができなかったことが背景にある。その他の改善点としては「発表中にTA同士の話し声が気になった」、「アクティビティの課題をフランクな内容にしてほしい」、「もっと韓国について教えてもらいたい」などの回答があった。

改善点として挙げられたこれらの回答を分析すると問題は大きく二つに分けられる。一つは授業をデザインする教師の課題といえる。もう一つはTAの意識や指導方法にある。アクティビティのテーマ選定やグループ分けなど、TA参加授業の効果を最大限に引き出すためにどのような授業デザインをするべきかは教師の重大な課題である。また、TAが学生に効果的なインプットを与えられるように、学生の学習段階や指導方法などを含めたガイドラインを事前に提供し、教育を行う必要があると考えられる。

6. おわりに

本稿では APU 韓国語授業における TA 実施の現状を紹介するために、韓国語および TA 参加授業に対する学習者の意識調査を行った。調査の結果、韓国語授業に対して会話能力向上を望む学習者が最も多かった。TA 参加授業に対しても会話の練習を求める学習者が最も多かった。このような結果をふまえ、会話に重点をおいた TA 参加授業をデザインした。学生を 4~5 名の小グループに分けて各グループに 1 名ずつ TA を入れた。決まった時間に与えられたテーマで自由に会話させ、その結果を紙にまとめて最終的にクラス全体で発表させた。同様の活動を TA を導入せずに行い、学生の様子を観察した。TA 参加授業実施の後にはアンケートを行い、学生の意見や感想を調査した。その結果、大半の学生が TA 参加授業に肯定的な意見を寄せた。「語彙・表現」、「会話能力の向上」において TA 参加授業を評価する意見が最も多かった。その他にもモチベーションの向上につながったという意見が多数寄せられた。

この度の TA 参加授業の実施を通して改善点および課題も多く見られた。教師にとっては、TA 参加授業の効果を最大限に引き出すための授業デザインが課題となった。そして、TA には事前にガイドラインを提供した上で、教育を実施することが急務であることを切に感じた。今後は TA 参加授業が韓国語学習に及ぼす影響について、より詳細に調査・研究していきたい。今回は韓国語 I に限定した調査を行ったが、次稿においては韓国語 II クラスを取り上げ、韓国語中級授業における TA の活用について考察したい。今回課題として挙げられた TA ガイドラインの作成も今後の課題にしたい。

参考文献

- 村岡英裕(1992)「実際使用場面での学習者のインターアクション能力について：ビジター・セッション場面の分析」『世界の日本語教育』2 115-127
- 宮崎里司、J.V. ネウストプニー共編(1999)『日本語教育と日本語学習 学習ストラテジー論に向けて』くろしお出版
- 中井陽子(2003)「談話能力の向上を目指した会話教育ービジターセッションを取り入れた授業の実践報告」『講座日本語教育』39 79-100
- 横須賀柳子(2003)「ビジター・セッション活動の意義とデザイン」『接触場面と日本語教育：ネウストプニーのインパクト』明治書院 335-352
- ファン・サウクエン(2005)「開かれた日本語教室-ビジターセッションと外語大のグローバリゼーション」『外語大における多文化共生：留学生支援の実践研究』非売品
- 金敬鎬(2009)「日本母語話者の韓国語学習に関する意識調査」『目白大学人文学研究』5 目白大学 231-244
- 赤木浩文(2011)「専修大学ウーロンゴン日本語コースに関する実践報告」『専修大学外国語論集』40 専修大学LL 研究室 123-136
- 中井陽子(2012)『インターアクションを育てる日本語の会話教育』シリーズ言語学と言語教育第25 ひとつじ書房
- 赤木浩文(2013)「日本語コースにおけるビジターセッションの学習効果と課題」『専修大学外国語教育論集』41 87-104
- Taeko Kamimura(2013) Motivating students through integrated EFL instruction: the case of low-proficiency university learners 『専修大学外国語教育論集』41 21-38